



# ひかりのこつうしん

No.7

## 「運動会を終えて」

ひかりの子幼稚園

2021年10月

交野の雄大な山々に見守られ、子どもたちの元気な声、頑張る気持ち、会場みんなが心を通わせてかわす笑顔に勇気もらった運動会でした。

コロナ以来、全園児の保護者が参集する大規模な行事となり、初めての場所で心配や不安もありましたが、保護者の皆様のご協力のおかげで円滑に行うことができましたこと、心より感謝申し上げます。

こりす組は、家庭を離れて初めての集団生活が始まりました。「担任の先生は困ったことがあったら、私を守ってくれる信頼できる人」として、幼稚園に行くのを楽しみにしてくれるようになりました。運動会では少し緊張しながらも、おうちの方と一緒に踊るダンスがかわいかったですね。運動会后 ミニパラバルーンでこひつじ組の演技をお部屋で再現するなど、異年齢からの刺激をたくさんもらった運動会でした。

こうさぎ組は夏休み後、心も身体もグンと成長しました。イメージを共有したり、役割分担をしながらごっこ遊びができるようになってきました。運動会当日、大好きなおうちの前で踊ったり、走ったりする子どもたちの笑顔は、今まで見たこともないくらい輝いていて、喜びがあふれていました。家以外で安心できる人と場所があり、どんな自分も大切な存在としてうけとめてくれる人との繋がりができたことは、なんて素敵なことでしょう。これからも泣いたり笑ったり、喧嘩したり、仲直りしたり、たくさん経験をしてほしいと願っています。

こぼと組は自分たちのオリジナルダンスや隊形移動に挑戦しました。昨年の経験を土台にいきいきと踊る姿に1年の成長を感じました。いきいきランドで何度かこひつじ組と練習が重なる時間がありました。「みーぎ、ひだり、上上上上、ふうせん！」と子どもたちだけで掛け声を掛け合いながら、雄大に広がるパラバルーンを操るこひつじ組の演技や、ビブスを着て颯爽と走りぬくりレーに、こぼと組の子どもたちの目は釘付けでした。運動会が終わった翌日、職員室前に運動会で使った本物のバトンを置いておくと、年中組の子どもたちが「リレーやろう！」とバトンを持っていき、担任の先生も混じって本気リレーを楽しんでいました。年長組のようにうまくバトンは繋がらなかったけれど、「リレーをした！」それだけでも大満足！来年が楽しみです。

こひつじ組は持てる力を出し切ったリレーでした。勝って飛び跳ねて喜んでいる姿も、負けて悔しくて、涙があふれて号泣している姿も、どちらも抱きしめてあげたい位尊い姿でした。

運動会后、年長組のクラスに礼拝に行かせて頂きました。「天に宝を積む」(マタイ6:19)という聖書のお話をしました。『勝つために、バトンを繋げるために、ひとり一人が見えないところで練習をしたこと、仲間のことを思ってたくさん話し合ったり工夫したことは、誰も知らなくても、目に見えなくてもちゃんと神さまは知っておられ、永遠に残る宝を天に積んでいるんだよ。勝ったことはとても素敵なこと、でも3位は頑張りが3番目でダメなのではなく、ひとり一人が最後まであきらめずに走ったことが素晴らしい、それが「宝」なんだよ』とお話しました。

子どもたちがそれぞれの運動会の経験を胸に刻み、ひかりの子ミニ祭り、遠足、クリスマス会と楽しいことが今後目白押しです。すべての行事が日頃の保育の延長線上にあり、子どもの興味や関心が深まるものでありたいと願っています。

園長 松本直子